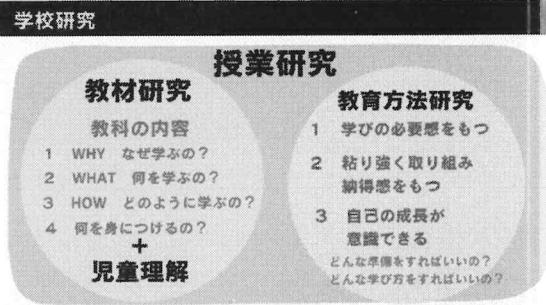


**「他と協働し、自らくらしを創造する子供の育成」
～確かな教材研究に基づいた授業づくりと見取り～（一年次）**

1. 研究主題設定の理由

学校研究では、授業を通して学校教育目標の達成を目指すという考えから、主題は学校教育目標と一体とし、副題として「確かな教材研究に基づいた授業づくりと見取り」と設定した。

学校研究として授業研究に取り組むこととし、授業研究を資料1のように教材研究と教育方法研究を合わせたものとして考える。これまで全体で行う授業研究の大部分を教育方法研究が占めており、教材研究は授業者本人の研究に任せられてきた部分が多い。教材研究では、改めて教科の本質を見つめ直すとともに、教材研究、教育方法研究と合わせて両面から子供たちに本当に力が付く授業改善を行っていきたいと考えこのように設定した。



【資料1】 R7 第1回研究全体会資料

2. 研究方法

（1）研究の進め方

研究は以下のような流れで進めていく。

- ① 学校教育目標（マトリクス表の資質・能力）と学級の実態を照らし合わせて、適切な単元を選ぶ。令和7年度は国語・算数より選ぶ。

- ② その単元について、

Why（なぜ学ぶのか、学習の価値）

What（何を学ぶのか、教科の見方・考え方）

How（どのように学ぶか・学習計画）を考え、指導案に表す。

授業づくりのベースとなるので、

- ・学習指導要領
- ・〇〇科において育成を目指す資質・能力（文科省）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ・その他参考資料 を参照し、事前研を行って十分に吟味する。

- ③ 授業づくりの3つの視点に基づいて、目標を達成するための手立てを考える。

【授業づくりの3つの視点】

※以下は昨年度までに出了手立ての例です。

① 子供が学ぶ必要感を感じることができる授業づくり 学習計画は必ず子供と共有し明示する！

○教材にしっかり向き合う。教材の価値を確かめる。「この単元でねらうこと」「児童の実態」「つきたい力」を考える。

○課題解決のための計画（学習計画）を子供と教師で共有し、見通しをもって学習を進める。

○日常生活を意識した課題づくりをする。

例）ゲストティーチャーや身の回りの情報から得た知識から始まるなど

○子供の問いややりたいことを生かす。

②納得感を持ち、粘り強く学習に取り組むことができる授業づくり

協働が不可欠

○解決手段の一つとして、探究的な学習（課題設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現）をどの教科でも行う。

○思考の過程を言語化する。

例）問題→めあて→イメージ→図→言葉→式→説明→検算など

○学習材に繰り返し関わる。

○実生活で活用し、学びが生活に活かせることを実感する。

例）物語を演じる 測る 動く 見せる 公開する

③自己の成長を意識することができる授業づくり

○全学年共通の振り返りの視点を設定し、自己を見つめる眼を育む。

【ことばの教室における授業作りの3つの視点】

①子供が学ぶ必要感を感じることができる授業づくり

＜子供が自分らしさを受け止められる場で、主体的に学んでいる授業づくり＞

- ・共感的な関係がある。ありのままを受け止められ、気持ちが汲み取られ、安心感を感じる。
- ・発信を大切にされることや学習への見通しが持てることにより、自分事として取り組める。

※必要感を前提とする学び以外に、楽しく取り組むうちに目標が定まり理解が後追いすること、できたことが使える技能として定着する過程で自信が育まれていくことも含めて学びととらえる。

②納得感を持ち、粘り強く学習に取り組むことができる授業づくり

＜子供ができている実感が持て、関わりを楽しみながら活動に取り組んでいる授業づくり＞

- ・スモールステップや意図的な働きかけによって技能の習得や対話が無理なく行われている。
- ・成功体験を積み重ね、諦めずに取り組み、最後はやり遂げた満足感を味わえる。
- ・選べる場面、自らの発想・工夫が生きる自由度がある活動などで、関わりながら学んでいる。

※初めは人からの働きかけによってとまどう気持ちが解され、関わってみた経験が核になって、自分を開いて他と協働して学びを進められるようになっていくととらえる。

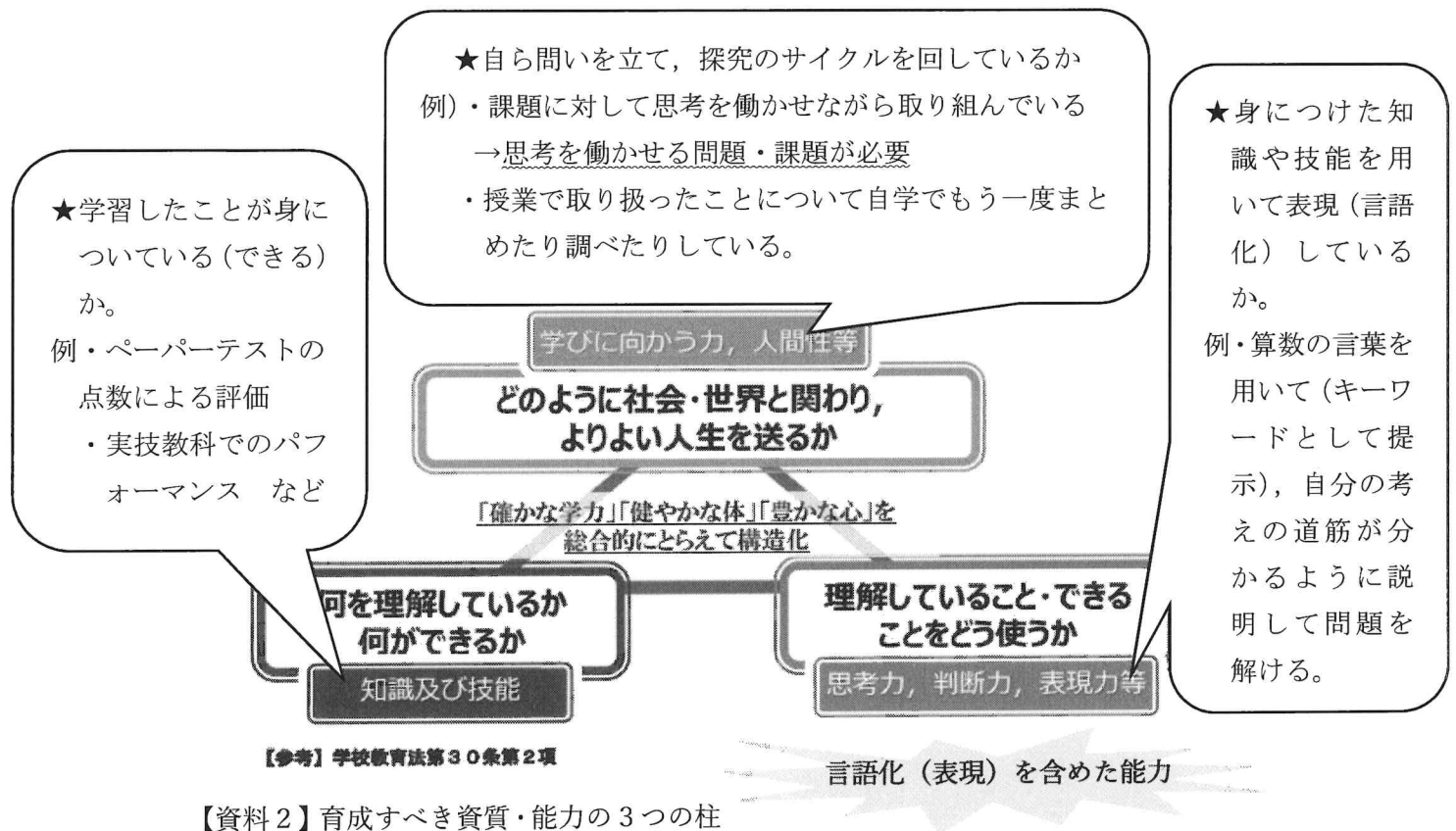
③自己の成長を意識することができる授業づくり

- ・技術の習得、認識の明確化、不安の軽減、自信の増大など、学習の過程で成長を自覚できる。
- ・対話によって思考を広げ、深められる。

※良好な関係性の中で、心に響く適時適切な言葉がけをさりげなく細やかにしていくことで、子供が自覚的に、また無自覚にも成長していくととらえる。

(2) 「評価」の仕方

単元を始めるにあたり、育成したい資質・能力（単元の目標）に対する評価基準を明確にもって継続的に評価する。どこまでできたらB評価（目標達成）となるかをはっきりさせることにより、正確な評価、単元の途中での計画の見直し、言葉かけの質向上など、評価によって児童の力と授業の質両方を高めていく。以下は評価方法の例。



【資料2】育成すべき資質・能力の3つの柱

(3) 研修について

- 日常的に授業づくりについて語り合うことができるように、「チャットタイム」（毎週金曜日 16:10～16:40）を設定する。
チーム学校として、全員で子供を育て、私たちも成長していくために知識や経験を共有していく。業務に関する悩み（教材研究・授業の進め方・評価など）・学級経営・校務分掌だけでなく、普段考えていること、「もっとこうだったらいいのにな。」と思うことを話し合う。
- 「学級づくり」や「授業づくり」などについて専門的な見地から指導・助言をいただく。

3. 研究組織

【研究推進委員会】校長, 教頭, 教務, 研究部所属職員

【研究部】学年ブロックより1名

全体統括, 研究会の運営および紀要取りまとめ, チャットタイムの運営, 庶務全般等を行う

4. 本年度の研究計画

(1) 授業研究会のもち方について

授業研究会は「大規模授業研究会」の規模で全員が行うものとする。今年度は, 学年ブロックごと「国語」と「算数」に絞って行う(どちらの教科を研究するか2人で話し合う)。ただし, 特別支援学級はその限りではない。

*「ことばの教室」はすべて小規模研究会で実施する。事前研究会は以下のグループごとに行う。

グループ	メンバー(案) ◎…リーダー(研究部)
A 低学年部	◎1年担任, 2年担任, たんぽぽ担任
B 中学年部	◎3年担任, 4年担任, 教務
C 高学年部	◎5年担任, 6年担任, もみじ担任
D ことば	言語通級指導教員

【研究会の基本的な進め方】

- ① 4月初めに, どの時期にどの教科で研究授業を行うか決定し, 講師の依頼を行う。
- ② 授業予定日の1か月～1か月半前にグループリーダーが招集をかけて集まり, 授業づくりの検討を行う。事前に講師等への相談を積極的に行う。
- ③ 2週間前までに指導案の原案を作成し, グループメンバーおよび研究主任に提出する。
- ④ 修正した指導案を 1週間前までに研究主任に提出する(校長・教頭への提出は研究主任が行う)。
- ⑤ グループリーダーが招集して2回目の検討会を行う(内容は自由とする)。
- ⑥ 全員が授業および事後研究会に参加する。事後研修会の記録はホワイトボードを用いて行う。子供にその教科で育成すべき資質・能力が身についたかを中心に話す。ホワイトボードの記録は写真に撮影し, 研究の記録として保存する。

※教科ごとの育成すべき資質・能力は, 以下の資料等を参照し明らかにしておく。

- ・ 国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料や
- ・ 教育課程部会 ○○科ワーキンググループの資質・能力に関する資料

- ⑦ 授業研究会終了後, 事後研修のホワイトボードの記録と共に, 振り返りをタブレットに記入する。

(2) 研究紀要の作成について

本年度の研究の成果や課題などを明らかにするために研究紀要(A4版1枚程度)を制作する。

PDF形式にし, タブレットやパソコン上で見られるようにする。研究授業後1ヶ月以内(単元終了を目安に)に作成する。研究紀要の項目は以下の二つ。

- ① 授業研究会の指導案
- ② 授業・単元全体を通して育成すべき資質・能力が身についたか

(3) 研究に関わる主な日程

日付	項目	主な内容	学年・教科・講師
4月2日	水	研究全体会①	研究概要の確認
5月23日	金	研究全体会②	新しい指導案の形式の提案
6月11日	水	第1回校内全体授業研究会	授業を通した研修
7月3日	木	第2回校内全体授業研究会	授業を通した研修 4年・国語 三浦登志一先生
7月28日	月	研究全体会③ 学級経営研修会①	・1学期の実践の振り返り ・授業の土台となる学級経営について学ぶ
8月25日	月	研究全体会④	2学期後半の取り組みを考える
9月19日	金	第3回校内全体授業研究会	授業を通した研修 6年・国語 三浦登志一先生
11月25日	火	第4回校内全体授業研究会	授業を通した研修 たんぼぼもみじ 村特天童校の先生
12月12日	金	第5回校内全体授業研究会	授業を通した研修 1年2年・国語 三浦登志一先生
12月25日	木	研究全体会⑥	2学期の実践の振り返り
1月7日	木	研究全体会⑦	今年度の研究の総括
1月26日	月	第6回校内全体授業研究会	授業を通した研修 3年5年・算数 齊藤 一弥先生
2月20日	金	研究全体会⑧	次年度の研究の方向性を示す
2月27日	金	研究全体会⑨	次年度の研究の具体的な内容 を示す
3月中旬		研究紀要の完了	PDF 形式

*ことばの教室に関わる授業研修会は7月に1回、9月に2回を予定しており、映像での参観を行う。

D グループの先生方は全員参観。他のグループの先生も3回の内一回以上の授業を参観する。事後研究会についても、D グループの先生方と相談の上、可能な限り2～4時間目の指導のない時間に設定し参加できるようにする。